

土木施工管理基準（長野県農政部） 新旧対照表

改正後（平成 29 年 10 月 1 日適用）					現 行（平成 29 年 4 月 1 日適用）(H27.10.01)				
土木工事施工管理基準（新）					土木工事施工管理基準（旧）				
第 1 目的 ~ 第 3 施工管理の基本構成 [略]					第 1 目的 ~ 第 3 施工管理の基本構成 [略]				
第 4 施工管理の実施					第 4 施工管理の実施				
1 施工管理責任者 ~ 5 検査（完成・既済部分）時の提出内容 [略]					1 施工管理責任者 ~ 5 検査（完成・既済部分）時の提出内容 [略]				
5 その他					5 その他				
(1)~(3) [略]					(1)~(3) [略]				
<u>(4) 施工管理に当たっては、「土木工事施工管理基準の手引」(平成 19 年 3 月 30 日付け 18 農振第 2123 号農村振興局整備部長通知)を参考に行うものとする。</u>					[新設]				
第 5 用語の定義 [略]					第 5 用語の定義 [略]				
別表第 1 直接測定による出来形管理					別表第 1 直接測定による出来形管理				
1 共通工事 ~ 7 河川及び排水路工事 [略]					1 共通工事 ~ 7 河川及び排水路工事 [略]				
8 管水路工事					8 管水路工事				
管体基礎工（砂基礎等） ~ 管水路（遠心力鉄筋コンクリート管） R C 管 [略]					管体基礎工（砂基礎等） ~ 管水路（遠心力鉄筋コンクリート管） R C 管 [略]				
工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準	工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	管水路 (ダクティル鉄管)	基準高(V)	[略]	[略]	8 管 水 路 工 事	管水路 (ダクティル鉄管)	基準高(V)	[略]	[略]
	K形 T形 U形	中心線のズレ(e)	[略]	[略]		K形 T形 U形	中心線のズレ(e)	[略]	[略]
	(強化プラスチック複合管)	ジョイント間隔	[略]	[略]		(強化プラスチック複合管)	ジョイント間隔	[略]	[略]
	B形、T形 C形 [削る。]	施工延長	[略]	[略]		B形、T形 C形 D形	施工延長	[略]	[略]

管理方式			測定箇所標準図	摘 要
管理図表によるもの(様式 2-1、2-2、3-4)	結果一覧表によるもの(様式 3-1、3-4)	構造図に朱記、併記するもの		
[略]	[略]	[略]	[略]	[略]

管水路（硬質ポリ塩化ビニル管）～ ジョイントコート [略]

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考)	測 定 基 準
			規格値(mm)	
8 管 水 路 工 事	管水路 (埋設とう性管)	管種等の適用範囲は原則として下記による。		
	ダクタイル鋳鉄管	J I S G 5526(ダクタイル鋳鉄管) J D P A G 1027(農業用水用ダクタイル鋳鉄管)		
	鋼管	J I S G 3443-1(水輸送用塗覆装鋼管-第 1 部：直管)		
	強化プラスチック管	W S P A -101(農業用プラスチック被覆鋼管)  J I S A 5350(強化プラスチック複合管) F R P M K <u>111-2016</u> (強化プラスチック複合管内圧管 ファイメントワイディング <sup>®</sup> 成形法)		
	たわみ率	[略]	[略]	[略]
	締 固 め 程 度	なし	[略]	[略]
		[略]	[略]	
		[略]	[略]	
		礫質土	[略]	[略]
		[略]	[略]	

管理方式			測定箇所標準図	摘 要
管理図表によるもの(様式 2-1、2-2、3-4)	結果一覧表によるもの(様式 3-1、3-4)	構造図に朱記、併記するもの		
[略]	[略]	[略]	[略]	[略]

管水路（硬質ポリ塩化ビニル管）～ ジョイントコート [略]

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考)	測 定 基 準
			規格値(mm)	
8 管 水 路 工 事	管水路 (埋設とう性管)	管種等の適用範囲は原則として下記による。		
	ダクタイル鋳鉄管	J I S G 5526(ダクタイル鋳鉄管) J D P A G 1027(農業用水用ダクタイル鋳鉄管)		
	鋼管	J I S G 3443-1(水輸送用塗覆装鋼管-第 1 部：直管)		
	強化プラスチック管	W S P A -101(農業用プラスチック被覆鋼管)  J I S A 5350(強化プラスチック複合管) F R P M K <u>1111-2006</u> (強化プラスチック複合管内圧管 ファイメントワイディング <sup>®</sup> 成形法)		
	たわみ率	[略]	[略]	[略]
	締 固 め 程 度	なし	[略]	[略]
		[略]	[略]	
		[略]	[略]	
		礫質土	[略]	[略]
		[略]	[略]	

管理方式			測定箇所標準図	摘 要
管理図表によるもの(様式3-5)	結果一覧表によるもの(様式 3-5)	構造図に朱記、併記するもの		
[略]	[略]	[略]	[略]	[略]

シールド工事(一次覆工) ~ シールド工事(二次覆工) [略]

9 畑かん施設工事 ~ 17 ため池改修工事 [略]

別表ア ~ ウ [略]

別表エ 管水路(強化プラスチック複合管)ジョイント間隔管理基準値

(単位: mm)

規 格 呼び径(mm)	J I S A 5 3 5 0				
	B形、C形及びT形				
	標準値	(参考)管理基準値	規格値		
良質基盤			軟弱基盤		
200	0	+10 <u>0</u>	+ 33 <u>0</u>	+22 <u>0</u>	
250	0	+10 <u>0</u>	+ 33 <u>0</u>	+22 <u>0</u>	
300	0	+10 <u>0</u>	+ 38 <u>0</u>	+25 <u>0</u>	
350	0	+10 <u>0</u>	+ 38 <u>0</u>	+25 <u>0</u>	
400	0	+10 <u>0</u>	+ 43 <u>0</u>	+28 <u>0</u>	
450	0	+10 <u>0</u>	+ 43 <u>0</u>	+28 <u>0</u>	
500	0	+15 <u>0</u>	+ 53 <u>0</u>	+35 <u>0</u>	
600	0	+15 <u>0</u>	+ 53 <u>0</u>	+35 <u>0</u>	
700	0	+15 <u>0</u>	+ 53 <u>0</u>	+35 <u>0</u>	
800	0	+15 <u>0</u>	+ 53 <u>0</u>	+35 <u>0</u>	
900	0	+15 <u>0</u>	+ 53 <u>0</u>	+35 <u>0</u>	
1000	0	+20 <u>0</u>	+ 53 <u>0</u>	+35 <u>0</u>	
1100	0	+20 <u>0</u>	+ 53 <u>0</u>	+35 <u>0</u>	
1200	0	+20 <u>0</u>	+ 53 <u>0</u>	+35 <u>0</u>	
1350	0	+20 <u>0</u>	+ 53 <u>0</u>	+35 <u>0</u>	
1500	0	+20 <u>0</u>	+ 53 <u>0</u>	+35 <u>0</u>	
1650	0	+25 <u>0</u>	+ 80 <u>0</u>	+53 <u>0</u>	
1800	0	+25 <u>0</u>	+ 80 <u>0</u>	+53 <u>0</u>	
2000	0	+25 <u>0</u>	+ 95 <u>0</u>	+63 <u>0</u>	
2200	0	+25 <u>0</u>	+ 95 <u>0</u>	+63 <u>0</u>	
2400	0	+25 <u>0</u>	+ 113 <u>0</u>	+75 <u>0</u>	
2600	0	+25 <u>0</u>	+ 113 <u>0</u>	+75 <u>0</u>	
2800	0	+25 <u>0</u>	+ 128 <u>0</u>	+85 <u>0</u>	
3000	0	+25 <u>0</u>	+ 128 <u>0</u>	+85 <u>0</u>	

管理方式			測定箇所標準図	摘 要
管理図表によるもの(様式3-5)	結果一覧表によるもの(様式 3-5)	構造図に朱記、併記するもの		
[略]	[略]	[略]	[略]	[略]

シールド工事(一次覆工) ~ シールド工事(二次覆工) [略]

9 畑かん施設工事 ~ 17 ため池改修工事 [略]

別表ア ~ ウ [略]

別表エ 管水路(強化プラスチック複合管)ジョイント間隔管理基準値

(単位: mm)

規 格 呼び径(mm)	J I S A 5 3 5 0					
	B形及びT形					
	標準値	(参考)管理基準値	規格値			
良質基盤			軟弱基盤			
200	0	+10 <u>-5(0)</u>	+ 33 <u>-33 (0)</u>	+ 22 <u>-22 (0)</u>		
250	0	+10 <u>-5(0)</u>	+ 33 <u>-33 (0)</u>	+22 <u>-22 (0)</u>		
300	0	+10 <u>-5(0)</u>	+ 38 <u>-38 (0)</u>	+25 <u>-25 (0)</u>		
350	0	+10 <u>-5(0)</u>	+ 38 <u>-38 (0)</u>	+25 <u>-25 (0)</u>		
400	0	+10 <u>-5(0)</u>	+ 43 <u>-43 (0)</u>	+28 <u>-28 (0)</u>		
450	0	+10 <u>-5(0)</u>	+ 43 <u>-43 (0)</u>	+28 <u>-28 (0)</u>		
500	0	+15 <u>-10(0)</u>	+ 53 <u>-52 (0)</u>	+35 <u>-34 (0)</u>		
600	0	+15 <u>-10(0)</u>	+ 53 <u>-52 (0)</u>	+35 <u>-34 (0)</u>		
700	0	+15 <u>-10(0)</u>	+ 53 <u>-52 (0)</u>	+35 <u>-34 (0)</u>		
800	0	+15 <u>-10(0)</u>	+ 53 <u>-52 (0)</u>	+35 <u>-34 (0)</u>		
900	0	+15 <u>-10(0)</u>	+ 53 <u>-52 (0)</u>	+35 <u>-34 (0)</u>		
1000	0	+20 <u>-15(0)</u>	+ 53 <u>-51 (0)</u>	+35 <u>-33 (0)</u>		
1100	0	+20 <u>-15(0)</u>	+ 53 <u>-51 (0)</u>	+35 <u>-33 (0)</u>		
1200	0	+20 <u>-15(0)</u>	+ 53 <u>-51 (0)</u>	+35 <u>-33 (0)</u>		
1350	0	+20 <u>-15(0)</u>	+ 53 <u>-51 (0)</u>	+35 <u>-33 (0)</u>		
1500	0	+20 <u>-15(0)</u>	+ 53 <u>-51 (0)</u>	+35 <u>-33 (0)</u>		
1650	0	+25 <u>-20(0)</u>	+ 80 <u>-77 (0)</u>	+53 <u>-50 (0)</u>		
1800	0	+25 <u>-20(0)</u>	+ 80 <u>-77 (0)</u>	+53 <u>-50 (0)</u>		
2000	0	+25 <u>-20(0)</u>	+ 95 <u>-92 (0)</u>	+63 <u>-60 (0)</u>		
2200	0	+25 <u>-20(0)</u>	+ 95 <u>-92 (0)</u>	+63 <u>-60 (0)</u>		
2400	0	+25 <u>-20(0)</u>	+ 113 <u>-110 (0)</u>	+75 <u>-72 (0)</u>		
2600	0	+25 <u>-20(0)</u>	+ 113 <u>-110 (0)</u>	+75 <u>-72 (0)</u>		
2800	0	+25 <u>-20(0)</u>	+ 128 <u>-125 (0)</u>	+85 <u>-82 (0)</u>		
3000	0	+25 <u>-20(0)</u>	+ 128 <u>-125 (0)</u>	+85 <u>-82 (0)</u>		

注) 1. ~4. [略]

5. 継手部の標準断面は次ページのとおりであり、標準値は図の寸法 y である。なお、基準線に対し抜け出し側を (+) とする。

[削る。]

6. 測定値は、受口部長さの製品誤差によりマイナスとなる場合がある。

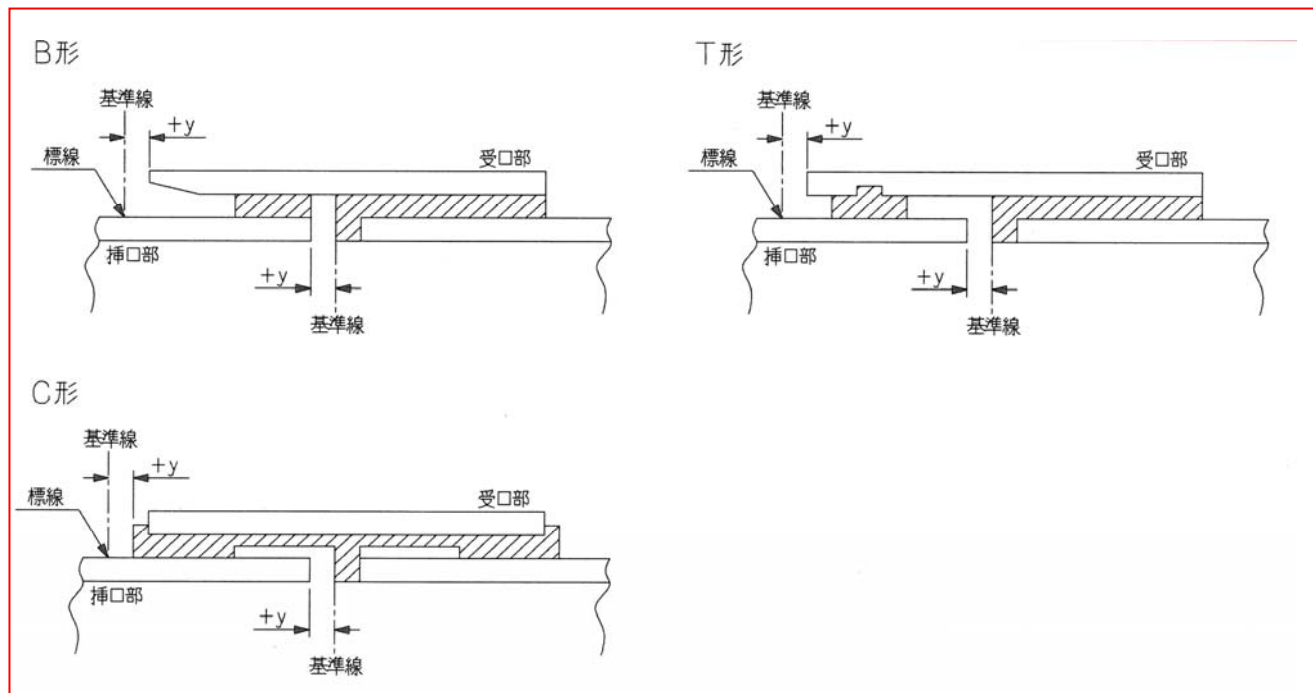
注) 1. ~4. [略]

5. 継手部の標準断面は次ページのとおりであり、標準値は図の寸法 y である。なお、基準線に対し抜け出し側を (+)、入り込み側を (-) とする。また、管理基準値等のうち ( ) 内数値は、点線で示した形状の管に適用する。

6. D 形の場合は、受口側と挿口側を各々測定する。

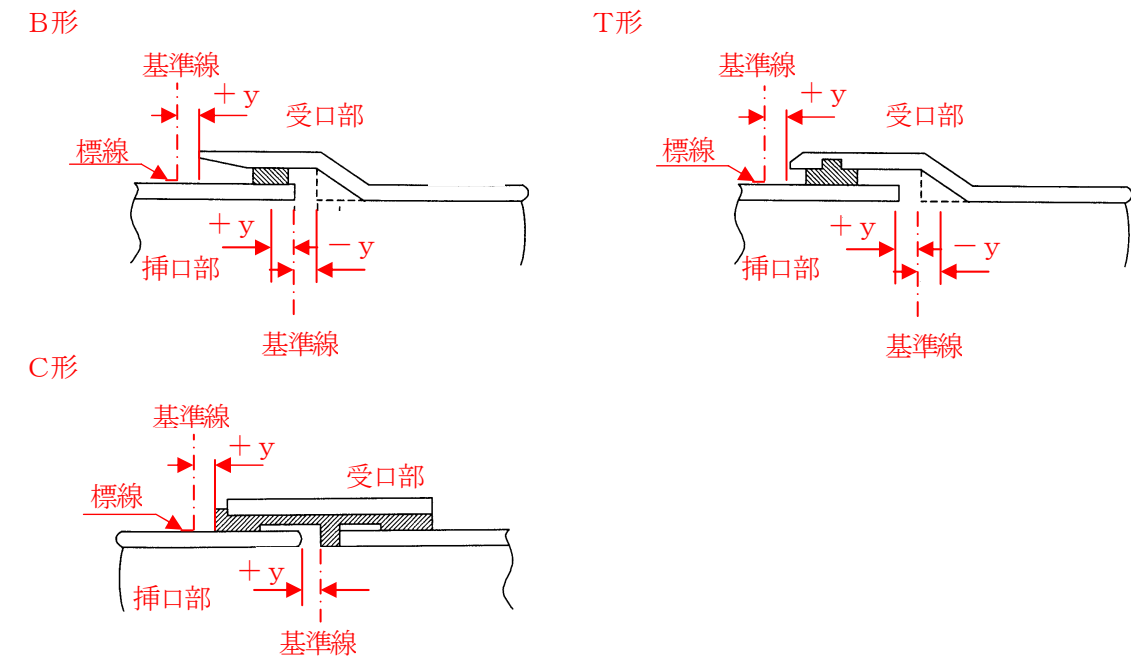
[新設]

[削る。]



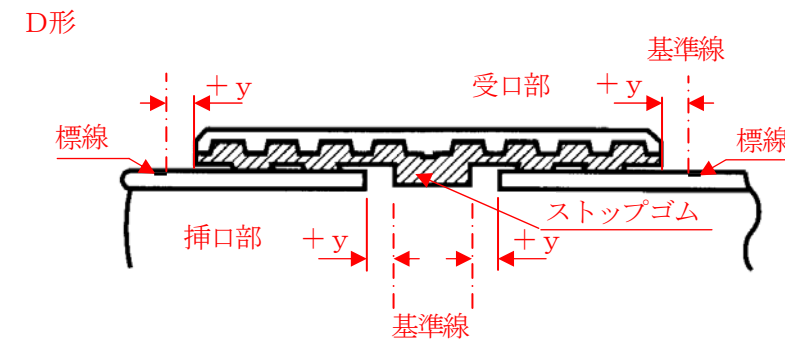
(単位: mm)

規格	JIS A 5350						
	C形						
	標準値	(参考) 規格値					
管理基準値		良質地盤		軟弱地盤			
呼び径 (mm)							
200	0	+10	0	+33	0	+22	0
250	0	+10	0	+33	0	+22	0
300	0	+10	0	+38	0	+25	0
350	0	+10	0	+38	0	+25	0
400	0	+10	0	+43	0	+28	0
450	0	+10	0	+43	0	+28	0
500	0	+15	0	+53	0	+35	0
600	0	+15	0	+53	0	+35	0
700	0	+15	0	+53	0	+35	0
800	0	+15	0	+53	0	+35	0
900	0	+15	0	+53	0	+35	0
1,000	0	+20	0	+53	0	+35	0
1,100	0	+20	0	+53	0	+35	0
1,200	0	+20	0	+53	0	+35	0
1,350	0	+20	0	+53	0	+35	0
1,500	0	+20	0	+53	0	+35	0
1,650	0	+25	0	+80	0	+53	0
1,800	0	+25	0	+80	0	+53	0
2,000	0	+25	0	+95	0	+63	0
2,200	0	+25	0	+95	0	+63	0
2,400	0	+25	0	+113	0	+75	0
2,600	—	—	—	—	—	—	—
2,800	—	—	—	—	—	—	—
3,000	—	—	—	—	—	—	—



(単位: mm)

規格	JIS A 5350						
	D形(S60)						
	呼び径 (mm)	標準値	管理基準値		(参考)規格値		
良質地盤					軟弱地盤		
200	0	+5	0	+25	-3	+15	-3
250	0	+5	0	+25	-3	+15	-3
300	0	+5	0	+25	-3	+15	-3
350	0	+5	0	+25	-3	+15	-3
400	0	+5	0	+35	-3	+25	-3
450	0	+5	0	+35	-3	+25	-3
500	0	+15	0	+35	-3	+25	-3
600	0	+15	0	+35	-3	+25	-3
700	0	+15	0	+35	-3	+25	-3
800	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
900	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,000	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,100	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,200	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,350	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,500	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
1,650	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
1,800	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
2,000	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
2,200	0	+30	0	+50	-5	+40	-5
2,400	0	+30	0	+50	-5	+40	-5



※ 管がストップゴムをつぶしている場合は(-)とする。なお、その場合受口側の値を0とする。

[削る。]

[削る。]

別表オ ~ カ [略]

別表オ ~ カ [略]

別表第2 撮影記録による出来形管理 [略]

別表第3 品質管理

1 コンクリート関係 ～ 5 プレキャストコンクリート製品及び鋼材関係

(3) その他の二次製品

	種類	規格	試験方法	標準ロット数
ダクタイル キャスト 鉄管	ダクタイル鉄管	[略]	[略]	φ 75～ <u>300</u> 200本 φ <u>350</u> ～ 600 100本
	ダクタイル鉄管異形管	[略]	[略]	φ 700～1,000 <u>50</u> 本 φ 1,100～ <u>2,600</u> <u>25</u> 本 [削る。]
	ダクタイル鉄管直管 ダクタイル鉄管異形管 ダクタイル鉄管継手 (農業用水用)	[略]	[略]	

試験(測定)基準	管理方法	処置
[略]	[略]	[略]

硬質塩化ビニル管 ～ 鋼管 [略]

別表第4 施工管理記録様式 [略]

別表第2 撮影記録による出来形管理 [略]

別表第3 品質管理

1 コンクリート関係 ～ 5 プレキャストコンクリート製品及び鋼材関係

(3) その他の二次製品

	種類	規格	試験方法	標準ロット数
ダクタイル キャスト 鉄管	ダクタイル鉄管	[略]	[略]	φ 75～ <u>250</u> 200本 φ <u>300</u> ～ 600 100本
	ダクタイル鉄管異形管	[略]	[略]	φ 700～1,000 <u>60</u> 本 φ 1,100～ <u>1,500</u> <u>40</u> 本 <u>φ 1,600～2,600</u> <u>30</u> 本
	ダクタイル鉄管直管 ダクタイル鉄管異形管 ダクタイル鉄管継手 (農業用水用)	[略]	[略]	

試験(測定)基準	管理方法	処置
[略]	[略]	[略]

硬質塩化ビニル管 ～ 鋼管 [略]

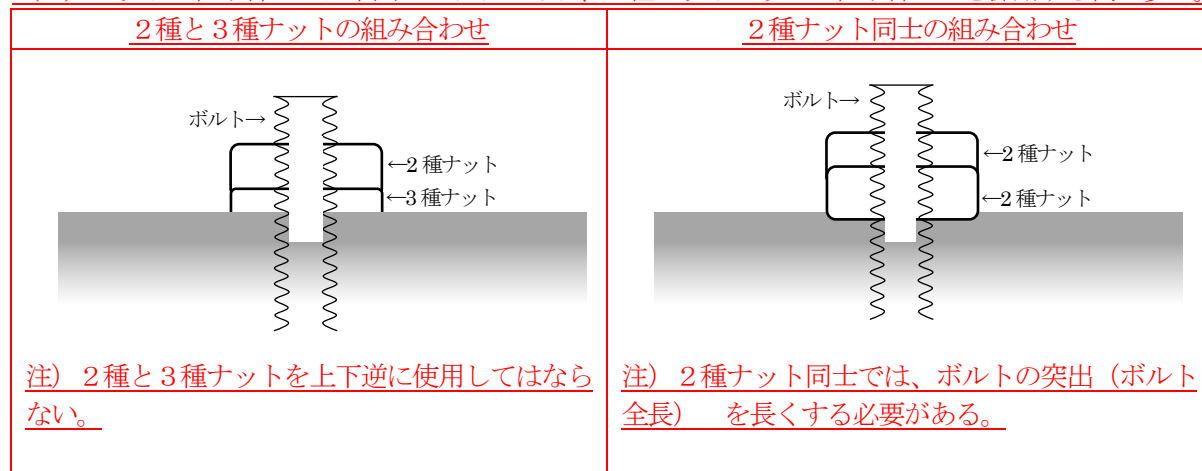
別表第4 施工管理記録様式 [略]

参 考 資 料

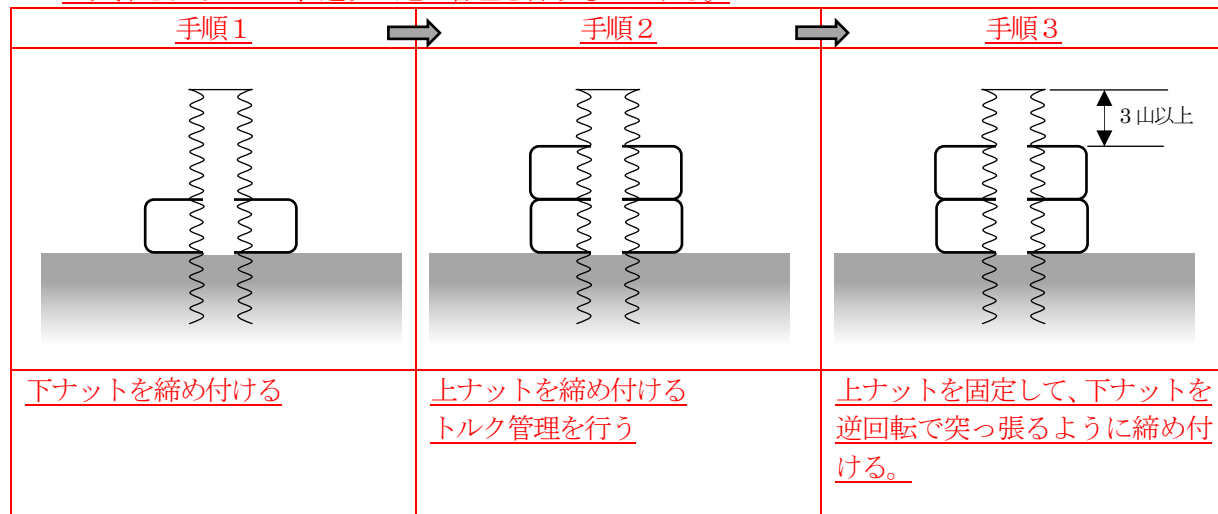
1 管水路の通水試験 ～ 7 レディーミクストコンクリート単位水量測定要領（案） [略]

8 ダブルナット（アンカーボルト）の施工について

- (1) ダブルナットは、振動に対する緩み止めとして、二つのナットを使用してロックする一般的な方法である。
- (2) ナットには、1種（片面取り形）、2種（両面取り形）及び3種（両面取りの薄形）があり、ダブルナットでは2種又は3種ナットを組み合わせて使用する。
- (3) ナットの組み合わせは下図のとおりであり、2種ナットどうしの組み合わせを採用する例が多い。



- (4) ダブルナットでは、軸力を受けるのは上ナットになることから、上ナットのトルク管理をしっかり行い締め付けるものとする。なお、3種ナット（厚さが薄いナット）を上ナットに使用してはならない。
- (5) ナットの締め付けは、次の手順で行わなければならない。特に手順3の作業を行わなければダブルナットの機能が発揮されないので、適切に施工管理を行うものとする。



- (6) 上ナットのボルト先端は、ナットの外に3山以上出るようにしなければならない。

参 考 資 料

1 管水路の通水試験 ～ 7 レディーミクストコンクリート単位水量測定要領（案） [略]

[新設]



9 管水路（強化プラスチック複合管）ジョイント間隔管理基準値

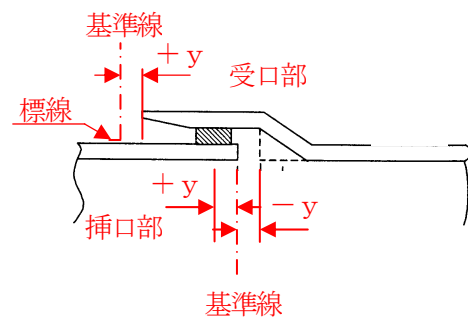
[新設]

強化プラスチック複合管について、現在生産中止となっている配管材に係るジョイント間隔管理基準値を以下に示すので、機能診断業務等の参考にされたい。

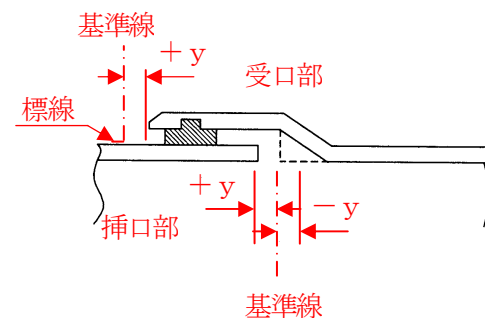
(単位：mm)

規格	JIS A 5350				
	B形及びT形				
	呼び径 (mm)	標準値	管理基準値	(参考)規格値	
良質地盤				軟弱地盤	
200	0	+10 -5(0)	+33 -33(0)	+22 -22(0)	
250	0	+10 -5(0)	+33 -33(0)	+22 -22(0)	
300	0	+10 -5(0)	+38 -38(0)	+25 -25(0)	
350	0	+10 -5(0)	+38 -38(0)	+25 -25(0)	
400	0	+10 -5(0)	+43 -43(0)	+28 -28(0)	
450	0	+10 -5(0)	+43 -43(0)	+28 -28(0)	
500	0	+15 -10(0)	+53 -52(0)	+35 -34(0)	
600	0	+15 -10(0)	+53 -52(0)	+35 -34(0)	
700	0	+15 -10(0)	+53 -52(0)	+35 -34(0)	
800	0	+15 -10(0)	+53 -52(0)	+35 -34(0)	
900	0	+15 -10(0)	+53 -52(0)	+35 -34(0)	
1,000	0	+20 -15(0)	+53 -51(0)	+35 -33(0)	
1,100	0	+20 -15(0)	+53 -51(0)	+35 -33(0)	
1,200	0	+20 -15(0)	+53 -51(0)	+35 -33(0)	
1,350	0	+20 -15(0)	+53 -51(0)	+35 -33(0)	
1,500	0	+20 -15(0)	+53 -51(0)	+35 -33(0)	
1,650	0	+25 -20(0)	+80 -77(0)	+53 -50(0)	
1,800	0	+25 -20(0)	+80 -77(0)	+53 -50(0)	
2,000	0	+25 -20(0)	+95 -92(0)	+63 -60(0)	
2,200	0	+25 -20(0)	+95 -92(0)	+63 -60(0)	
2,400	0	+25 -20(0)	+113 -110(0)	+75 -72(0)	
2,600	0	+25 -20(0)	+113 -110(0)	+75 -72(0)	
2,800	0	+25 -20(0)	+128 -125(0)	+85 -82(0)	
3,000	0	+25 -20(0)	+128 -125(0)	+85 -82(0)	

B形

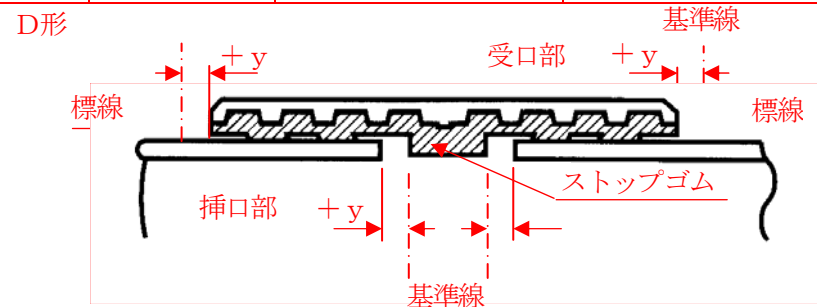


T形



(単位：mm)

規格	JIS A 5350						
	D形						
	呼び径 (mm)	標準値	管理基準値	(参考)規格値			
良質地盤				軟弱地盤			
200	0	+5	0	+25	-3	+15	-3
250	0	+5	0	+25	-3	+15	-3
300	0	+5	0	+25	-3	+15	-3
350	0	+5	0	+25	-3	+15	-3
400	0	+5	0	+35	-3	+25	-3
450	0	+5	0	+35	-3	+25	-3
500	0	+15	0	+35	-3	+25	-3
600	0	+15	0	+35	-3	+25	-3
700	0	+15	0	+35	-3	+25	-3
800	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
900	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,000	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,100	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,200	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,350	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,500	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
1,650	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
1,800	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
2,000	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
2,200	0	+30	0	+50	-5	+40	-5
2,400	0	+30	0	+50	-5	+40	-5



※ 管がストップゴムをつぶしている場合は(-)とする。なお、その場合受口側の値を0とする。

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所での平均値とする。  
 2. (参考)規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。  
 3. 測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合、管の外から測定してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径800mm以上に適用する。  
 なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装(表層、上層路盤、下層路盤)を除いた埋戻完了時点とする。  
 4. 管の外側から測定する場合の測定位置は、施工管理記録様式に示すa' b' c' d'とする。  
 5. 継手部の標準断面は次ページのとおりであり、標準値は図の寸法yである。なお、基準線に対し抜け出し側を(+)、入り込み側を(-)とする。また、管理基準値等のうち( )内数値は、点線で示した形状の管に適用する。  
 6. D形の場合は、受口側と挿口側を各々測定する。